

5歳児ぱぷら組 保育指導案

男児 11名 女児 4名 計 15名
指導者 ○○ ○○

1 本園の研究主題との関連から

(1) 本園教育課程 5歳児の重点目標

幼児の知的好奇心や探究心を高めながら、思考力の芽生えを大切にするとともに、友達と自ら豊かな生活を創造する力を育てる。

○知的好奇心や探究心の高まり ○生活を創造する力の育成 ○健康・安全への意識の高まり

(2) 教育課程Ⅲ期（9・10月）の求める姿及び領域のねらいと内容（抜粋）

Ⅲ期： 友達関係を深めながら活動に取り組み、経験を生かして遊びや生活を進めるようになる時期

ねらい ○ 共通の目的をもって友達と一緒に遊びや活動を進める楽しさを味わう。
○ 身の回りの自然や物の仕組みに心を動かし、それらを利用して遊ぶ楽しさを味わう。
○ 周囲のできごとに対して、考えたことを言葉で伝えようとする。

内容 ○ 目標に向かって友達と一緒に活動したり、責任をもって年長児の役割を果たしたりする。
○ 身近な自然を遊びに取り入れ、試したり、確かめたりする。
○ 身近な出来事を自分なりに感じたり、疑問をもったりしたことを、言葉で表現する。また、事実をありのままに伝える。

(3) 5歳児における環境教育で大切にしていること

- 園や大学、地域の身近な人との関わりを広げて刺激を受けたり、憧れたりする経験を基に、目的を共有し、力を合わせて自らよりよい生活をつくり出していくことのよさに気付かせる。
- 身の回りの自然環境に繰り返し触れたり、それらを遊びや生活に取り入れたりしながら、不思議さや疑問に思いを巡らせて探究することや、ものの性質や仕組みに興味や関心を深めることを充実させる。また、繰り返し試行錯誤したり、調べたりする面白さに気付く環境を工夫する。
- Ⅲ期においては、興味や関心をもって自然と関わったり、自然物を使ったりして直接的、具体的な体験を楽しみ、物事に積極的に取り組む力を育む。特に、身近なものや道具などに興味をもって関わり、考えを出したり、試したりして遊ぶ体験を通して、人やものを大切にする力を身に付けさせる。また、身近な生き物や草花と関わる経験の中で、命あるものを大切にすることや循環に興味や関心をもって関わる体験を充実させる。

2 幼児の実態

幼児は、園内やグラウンド、大学構内で虫とりをし、グループの友達と一緒に住処を作ったり、世話をしたりすることに興味や関心をもっている。また、虫それぞれの食べ物や種類などを図鑑で調べたり、鳴き声の出し方を観察したりして、分かったことを伝え合う姿も見られる。虫の特性が分かるようになると、虫の量が多すぎることで共食いをすることに気付き、広い場で飼うことの必要性を感じるようになってきた。

「あなたのいえ わたしのいえ」の絵本に興味をもったことで、木工遊びが始まった。園庭に家を描いて釘打ちをしたり、保護者からいただいた木片を使って、壁飾りや看板をつくったりして遊ぶことを繰り返し楽しんでいくと、プレゼントや栽培物の看板づくりへと広がり、目的をもって作ることを楽しむようになってきた。

運動会のリレーを経験することで、チームの友達と一緒に頑張り、勝ちたいという思いが高まる一方、思うようにうまくいかないという経験を味わった。また、チーム力を発揮するために、各々が力を出したり、他人を思いやったりすることの大切さがわかり、何度も新たな方法を考えてチャレンジするよさに気付くことができた。これを機に、あきらめずに頑張る力が身に付くと、自ら進んで竹馬に取り組むようになってきている。

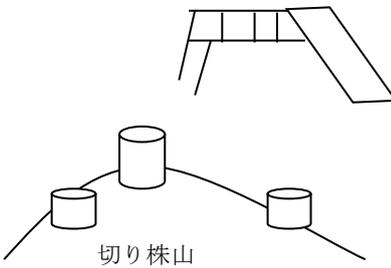
3 週のねらいと内容

- 友達や大学の先生と関わり、考えを出し合いながら木片でコオロギの家を作ることを楽しむ。
- 秋の自然と関わりながら、園内外で虫取りをしたり、世話をしながら、観察したりすることを楽しむ。
- 諦めない気持ちをもって、竹馬に挑戦することを楽しむ。
 - ・ コオロギの家の土台作りを保護者や大学の先生がしている様子を見る。
 - ・ コオロギの家の壁づくりをする。
 - ・ コオロギやカマキリを見付けたり、餌を与えたりする。
 - ・ 竹馬に挑戦する。

4 本日のねらいと内容

- グループの友達や大学の先生と協力して、考えを出し合って、コオロギの家を作ることを楽しむ。
- 虫に餌を与えたり、不思議に思ったことを調べたりすることを楽しむ。
- 自分なりの目標に向かって、竹馬に挑戦して遊ぶことを楽しむ。
 - ・ グループの友達とコオロギの家を作る。
 - ・ 虫の世話を通して、不思議に思ったことを調べたり、分かったことを伝えたりする。
 - ・ 竹馬に挑戦する。
 - ・ 「ききましよう・おはなししましよう」の中で、友達の話聞いて共感したり、付け加えたり、楽しかったこと、気付いたこと、明日以降の遊びにつながるような話をする。

5 本日の流れ

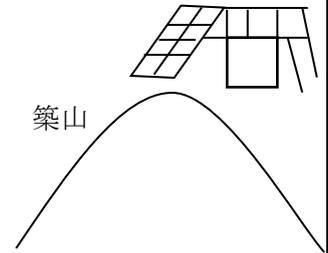
時間	幼児の活動	〔 〕 予想される幼児の姿	○ 環境の構成
8:45～	○ 登園する。		
9:10	○ 所持品の整理をする。		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> いちょうひろば </div>
	○ 冬野菜の水やりをする。		
9:10～	○ 好きな遊びをする。		
	○ コオロギの家づくり ・ コオロギの世話や観察 ・ 竹馬 など		
		<p style="text-align: center;">コオロギの家づくり</p> <div style="border: 2px dashed black; border-radius: 20px; padding: 10px;"> <p>大学の先生と一緒に、手順を考えたり、順番を決めたりして進めていこう。</p> <p>役割分担をグループの友達と話し合って決め、協力して取り組むことの良さに気付くだろう。</p> <p>友達の頑張りやそのよさを認めたり、考えの違いで葛藤し、折り合いをつけることの大切さに気付いたりする幼児が見られるだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 金槌・釘拭き・釘・木片・マジック・網・ビニルシート・曲がった釘入れ・丸シール ☆ 友達との協力が必要な遊びの空間を意図的に作る。 ☆ 木片に釘打ちをしていくことで、道具の使い方を知り、性質や仕組みに興味や関心をもって自ら関わろうとする姿を十分に認める。 ☆ 考えの違いによるトラブルが生じた際は、お互いの考えを出し合う場を設け、相手の思いに気付きながら、問題解決に向かうことができるように援助する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>「どんな考えを思い付いたかな」</p> <p>「順番はどうやって決める？」</p> <p>「友達と力を合わせて取り組むと、釘が打ちやすいね」「コオロギやバッタが広いお家に引っ越すことを楽しみにしているよ」</p> </div>	
		さくら組保育室	ちゅうりっぷ組保育室

花壇

アジサイ園

虫の世話や観察

友達に自分の思いを伝えてカマキリやコオロギのことを思って餌見付けをしたり、与えたりするだろう。家から持ってきた餌を与えて、食べる虫の様子に興味や関心をもって見る幼児や弱った虫を逃がす幼児たちは、親しみをもったり、いたわったりすることの大切さを学ぶだろう。また、不思議に思ったことを友達と図鑑で調べたり、分かったことを伝えたりしていくだろう。



○ 虫網・観察ケース・霧吹き・野菜や果物の皮・図鑑など

☆ 生き物ランドで飼っている虫のために、主体的に餌を見付けに行く姿や弱った虫を見付けて生き物が過ごしやすい場に逃がす姿を十分に認める。

☆ 不思議さに出合い、友達と図鑑で調べたり、確かめたりして分かったことを伝える楽しさを味わう姿に共感する。

「見付けた虫をどうするの?」「お腹が空いていたカマキリが喜んで食べているね」
「自分たちで飼っている虫を大切にしたり、弱った虫のことを考えて命を大切にしたりすることは大事なことだね」

竹馬

自分なりの目標を決めて挑戦する幼児、自分の力を試して繰り返し頑張る幼児、バランス感覚を覚えたい気持ちから、教師に支えを求めてくる幼児などの姿が見られるだろう。やる気や勇気を出して頑張る友達を応援したり、認めたりするだろう。

○ 竹馬・巧技台

☆ 幼児に目標を尋ね、勇気を出して取り組む姿を認めたり、昨日より進歩したことを喜んで、達成感を味わったりしていけるように励ます。

☆ 身の回りにある自然物で作った竹馬に興味や関心もち、大切にしようとする態度を認める。

「竹馬に挑戦しよう」 「体を前に倒した方がいいね」
「最初は難しかったけど、勇気を出したら乗れるようになったね」
「今日の目標は、もっといっぱい歩けるようになることなんだね」

ぽぷら組保育室

絵本の
部屋

アトリエ

遊戯室

多目的室

職員室

時間	幼児の活動	○ 環境の構成 ☆ 教師の援助
10:30	○ 片付ける。 ○ 排泄, 手洗い, うがい, 水分補給をする。	☆ 手洗い, うがいを見守り, 必要に応じて言葉を掛ける。
10:50	○ 集まりをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> ・「歌えバンバン」を歌う ・「さよならさんかくまたきてしかく」の言葉遊びをする ・出席確認をする など </div> ○ ふりかえりをする。 「ききましよう・おはなししましよう」	☆ 早く準備が終わった幼児から加われるような遊びをしながら, 全員が終わるのを待つようにする。 ☆ 自分がした遊びの紹介や面白かったことなどを出し合い, 友達にも知らせるようにする。 ☆ 興味をもった幼児が, これから関わってみようとする意欲や期待が高まるように話を促す。 ☆ 考えを出して試したことや見付けたもの, 思ったことや感じたことなどの話題に共感し, より具体的な話ができるような質問をしたり, 促したりし, 周囲の幼児にも広げる。
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>○ 友達の話に関心をもって聞き, 遊びをイメージしたり, 思いを共有したりできるようにする。 「○○してみたらうまくいったんだね。いい考えだったね。良かったね」</p> <p>○ 遊びが継続して楽しめ, 明日への期待が膨らむように, 具体的な方法や物を言葉にできるよう促す。 「もっと○○したいなと思っているんだね」</p> </div>		

6 評価の観点

- 共通の目的に向かって木工遊びに取り組み, 友達と一緒に考えを出したり, 協力して取り組むことのよさに気付いたりしていたか。
- 友達と虫の世話をすることで, 餌を探して与えたり, 虫の様子を見て, 変化に気付いたりしていたか。
- 自分なりに目標を決めて, 挑戦する意欲や頑張りが見られたか。
- 「ききましよう・おはなししましよう」の中で, 友達の話を聞いて共感したり, 付け加えたりして, 楽しかったこと, 気付いたこと, 明日以降の遊びにつながるような話をしてきたか。